

令和8年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

安浦中学校区 校番33 学校名 呉市立安登小学校

<p>a 学校教育目標</p> <p>ふるさとを愛し、よりよい未来の創り手となる児童の育成 ～学ぶ つながる 役に立つ～</p>	<p>b 経営理念 ミッション・ビジョン</p>	<p>〈ミッション〉(学校の使命) ○自校や郷土に誇りと愛着をもち、地域社会に感謝・貢献する児童の育成 ○様々な人々と協働して、主体的に課題解決に取り組む児童の育成</p> <p>〈ビジョン〉(将来の学校像) 次の新しい時代を担う人材となる児童生徒には、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な未来の創り手となることが求められています。安浦中学校区は、小中一貫教育を通じて、ふるさとを愛し、よりよい未来の創り手となる児童生徒を育てるという目標を共有し、地域に根ざした防災教育と児童生徒の主体的な学びを推進することで、持続可能な未来の創り手として必要な資質・能力を育てる学校を目指します。</p>
--	------------------------------	---

<p>c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点</p>	<p>○学校の使命である「学力の定着」と「社会性の育成」を基盤として、全ての児童生徒が安心して学び、成長できる学校風土を醸成し、学校文化の創造・継承や保護者・地域に信頼される学校づくりをすすめる。 ○安浦は平成30年7月の豪雨災害で大きな被害を受けた。そのため、自分の命は自分で守る力を身に付けるとともに、災害を風化させないために地域と連携・協働して防災教育に取り組み、ふるさと安浦の未来の創り手としての資質・能力を育成する。 ○中学校区として、学年相応の学力を定着させ、知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力を育成することが課題である。よって学校教育目標やミッション・ビジョンの具現化に向けて、「防災教育の深化」「授業改善の推進」「個を大切にした支援の充実」に全教職員で組織的に取り組む。</p>
-------------------------------------	---

<p>育成を目指す資質・能力</p>	<p>「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」「感謝・貢献」</p>
--------------------	--

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・3 年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策(こんなことをして達成します)	g 指標(効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	<p>確かな学力 児童生徒の主体的な学びを実現し、確かな学力の向上を図る。</p> <p>責</p>	<p>学びの基礎・基本を定着させる</p> <p>思考力・判断力・表現力を高める。</p>	<p>○授業の中で基礎学力を定着させるための時間を確保するとともに、個別指導の時間(朝スタ・木スタ)を充実させる。</p> <p>○児童の考えを深めたり広げたりするために、思考過程を意識した学び合いを取り入れた授業づくりを行う。</p>	<p>国語科・算数科・理科の知識・技能を見取るテスト80%以上の児童の割合</p>	80						
<p>児童アンケートの授業に関する項目において、授業の中で、「分かった」「できた」と感じる児童の割合</p>				100							
<p>国語科・算数科・理科の思考力・判断力・表現力を見取るテスト70%以上の児童の割合</p>				75							
**	<p>自分の命は自分で守る力を育成するとともに、地域の防災に貢献する。</p> <p>責</p>	<p>保護者、地域と連携した防災教育を推進し、「自分の命は自分で守る」力を育成する。</p>	<p>○避難訓練の事前・事後指導を充実させる。また、安登に起こりやすい災害について、年間を通して繰り返し指導する。</p> <p>○地域の防災リーダーネットワークや広島県防災出前授業を活用し、学んだ内容を、他学年・保護者・地域等に発信する。</p>	<p>災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している児童の割合</p>	100						
<p>自分が住む地域に起こりやすい災害について理解している児童の割合</p>				100							
*	<p>豊かな心 感謝と貢献の心を持ち、協働して取り組むことのできる心を育む。</p>	<p>礼節と規範意識を醸成する。</p> <p>仲間や学校、地域への感謝・貢献の心を育てる。</p>	<p>○「話の聴き方モデル」を示し、指導を徹底する。さらに良い聴き方ができた児童を褒める。</p> <p>○がんばりを認められる場を設定したり、構造的グループエンカウンターを実施したりすることで、自己肯定感を高めたり、児童がお互いを認め合ったりする心情を育てる。</p>	<p>児童アンケートにおいて「相手の目を見て最後まで話を聴くことができた。」に肯定的に回答した割合</p>	80						
<p>児童アンケートにおいて「自分にはよいところがある」「友達にはよいところがある」に肯定的に回答した割合</p>				90							
業務改善	<p>働き方改革を推進する。</p>	<p>働きやすい環境をつくる。</p>	<p>職員間における「おはようございます。」「お疲れ様です。」等の挨拶やコミュニケーションを大切にし、職員それぞれの得意分野をシェアすることで、同僚性を育む。</p>	<p>職員アンケートにおいて、「心理的安全性が確保されている」と感じている職員の割合。</p>	90						
いじめの防止	<p>安心・安全な学校風土を醸成する。</p>	<p>全ての児童が安心して学べる環境をつくる。</p>	<p>○年間2回のいじめ撲滅キャンペーンの取組を児童が主体となって行う。 ○いじめを発見したときには、積極的な情報交換を行い、即時対応する。</p>	<p>児童アンケートにおいて、「どんな理由があってもいじめはしない」に肯定的に回答した割合</p>	100						

【k:評価】  
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100  
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60